

## 5. その他のサポート

### (1) 社会的背景

我が国の社会構造や生活環境等に関する様々な環境変化を背景に、長寿化とともに介護への対応が増加し、価値観の多様化により葬送儀礼の内容も変化が生じる中、どのように事前準備を行ったらいいか判断に迷うことが少なくない。このような状況から、地域でライフエンディング・ステージをどのように過ごしたら良いかについて指導・助言できる者が求められている。

### (2) サポートの取組動向及び事例

以下では、まだ小規模ではあるが、具体化に向けた取組について紹介することとする。

#### <具体事例>

人生経験が豊富なシニア層に対して、高齢者が直面する医療、介護、相続といった課題について学習してもらい、それらの者が中心となり地域におけるライフエンディング・ステージに関する指導役を期待するもの。

## ■ワンストップでのサポートに対応する人材の育成

図表Ⅲ-5-1 サポートの概要

<p><b>【内容・特徴】</b></p> <p><b>&lt;ライフエンディングのマネジメントに関する認定講座&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ライフエンディングのマネジメントに関する認定講座を開設し、「医療」、「介護」、「相続」、「成年後見」、「財産管理」、「供養」等の高齢者が直面する課題について学習し、長寿化に伴う生活の変化への事前準備等を総合的にマネジメントできる人材を養成している。平成23年に試験的に開始しており、受講者に参加してもらい、テキストや講義内容について意見をもらっている。</li><li>・ライフエンディングのマネジメントに関する認定講座は、3日間の講義を想定しているが、学習する分野が非常に広範囲に及ぶため、基礎的な部分のみにならざるをえない。この講座で知識を身につけることは、高齢者の相談に対応する能力や葬祭業者等の関係主体をコーディネートするための入り口と位置付けている。そうした中でもすぐに学習したことを実践できるよう、「エンディングノートの書き方を高齢者に教えるセミナー」の開催法を講座に組み込んでいる。</li></ul> <p><b>&lt;シニアライフマネジャーのための研究会&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・3日間の講義だけでは、具体的に高齢者をサポートしたり、マネジメント役を担うことを仕事に組み込むことは難しいと考えている。そこで、マネジャーとしての実践力を育成していくために、当研究会でさらに発展的な学習ができるようにしている。</li><li>・ここでは、3ヶ月に1回、半日かけて事例研究を中心に講義を行い、1年を1つの単位として考えている。また、講座や研究会で学ぶだけでは限界があるので、次のステップとして実際に仕事を受けていく仕掛けを協会が用意する必要があると考えている。</li></ul> <p><b>【今後の展開】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・シニアライフマネジャーのための研究会の受講者の中でも、特に意欲的な人材と連携しながら、その人材を中核として、地域でのトータルケアを実現するフォーラム的な組織の構築を考えている。総合的にサポートするために、地域単位で異業種の事業者や専門家が加わる業際的なネットワークの確立が望まれる。</li><li>・今後、個々の主体がサポートしていくというより、各主体が連携して、ワンストップでサポートする仕組みを作っていかなければならないと考えている。関係主体はそれぞれそうした意識を持っているが、業際の垣根を乗り越えることは難しく実際の連携は小規模なものに留まっているのが現状である。</li></ul>
--